

市民が参加しやすいワークショップにするために、市にはどんな技術が求められるかと思っていますか。

柴田 ワークショップは、「直面する課題に具体的で実行可能な方法を導き出すことを目的とした問題解決の一つの方法」です。ワークショップを開くには事前の準備が大変ですし、参加者が自由に意見を言える雰囲気づくりに努めるなど、いろんな技術が求められますので、これからもワークショップを積極的に開催して経験を積む必要があるかと思っています。

守永 冒頭でも言ったように、職員は市民の声を聴く力がとても大事だと思います。わたしは話を理解しようとし

てくれる職員に出会うことができ、今まで活動を続けられました。違う価値観を持った人でも受け入れ、話を聴き、会話をする技術が必要だと思います。同じ価値観を持った人たちばかりと接するよりも違う価値観を持った人とも関わるほうが視野が広がり、組織の成長にもつながると思います。

「提案型公募事業」は市政に参 加できるチャンス

室長 現在、市民協働推進委員会では、「市民協働推進計画」に掲げた推進項目の一つである「提案型公募事業」(注3)について検討されています。現在の進み具合について委員会の副委員長を務

められている柴田さんから報告いただきました。ありがとうございます。

柴田 平成16年度に市民協働推進検討委員会が立ち上がり、その後、推進委員会が設置され、同19年度に「市民協働推進計画(素案)」を市に答申しました。それを基に市で検討されて「佐世保市市民協働推進計画」が策定されました。推進委員会では政策が計画どおりにきちんと実行されているかをチェックするほか、「提案型公募事業」の制度化に向け、具体的な内容について検討し、委員同士でさまざまな意見を寄せ合って活発な議論を行っています。

室長 守永さんは、子育て支援の分野を中心とした長年にわたるNPO活動

を通して、「提案型公募事業」について、どのように考えていますか。

守永 わたしは、遊具や施設が何にもないようなところで生まれ育ちました。そういうわたしが佐世保に来たとき、意外に思ったのは、子育て仲間の皆さんが「この街には何にもない」と不満を言っていたことです。わたしは「公園もあるしプラン」もある。いろいろあるじゃない。どうしてそんなこと言うの?」と不思議に思ったのを覚えています。わたしはこの「提案型公募事業」を考えたときに、まだこの街で生かせるものを民間の知恵を使って生かしたらいいというイメージを持っています。新しいものを作るといことはかなりではなくて、人と人をつなぐ、本来NPOが得意とするネットワークを作るとか、そういうところに目を向ければこの街はもっと豊かになれるのではないのでしょうか。今あるものを生かす可能性を考えながら活動できる人たちが、この街をもっと面白くするのではないかと思っています。

ただ、そうは言っても、最近、市が市民からの提案でものを作り、その運営は市民に任せるような取り組みが各地域で行われていますけど、実際はうまくいっていない現状があるようです。すべてがそうだとは言いませんが、少なくともわたしの経験で言えば、NPOの人と組織の成長が社会の流れについて



ような魅力的な事業になればいいかと思っています。

いけないことが一因だと思います。わたしもNPOを運営していて、うまくいかずに悩むことが多いんですけど、NPOとして事業をやるといことは少なくとも人の暮らしに関わりを持ち、あらゆる意味で社会的な立場に立って運営していくという責任が発生するわけですよ。それに耐えられるだけの組織力や財政力などを持たなければならぬかと思っています。

ただ、NPOは事業をやって少しずつ育っていくという現状がありますので、まずはこの「提案型公募事業」にNPOも関わる機会を増やし、育っていくチャンスになればよいと思います。そして野島さんのように佐世保のために何かしたいと思う若い世代にとっても、市政に参加できるチャンスとなる

ればならないかと思っています。

市民協働に積極的に参加を

室長 それでは最後に、今後の市民協働を推進していく上で、市長としての意気込みを聞かせてください。

市長 わたしは市民第一主義を基本とする市政を進めていますので、市民の皆さんの声を聴き、それを政策に反映していくことが基本であると考えていて、その一つの手法として市民協働があると思っています。ですから市民協働を推進するために、「提案型公募事業」に積極的に取り組んでいきたいと思っています。今、NPOはたくさんできています

から、こういう組織とつまく協働していきたい。NPO自体も若い市民をどんどん取り込めるよう、門戸を広げていただきたい。また市民協働推進委員会でも、多くの人がまちづくりに参加できるような仕組みを検討していただきたい。手法や環境は整いつつあるんだから、市民の皆さんにもぜひ積極的に市民協働に参加してほしいと思います。市民協働は新しい取り組みであり、最初はコストや時間がかかりますが、市民の皆さんのための市政ですから、定着させていかなければならないかと思っています。

その反面、行政においてはスピード感を追求していきたいと思っています。「単年度主義だから来年度から取り組む」といふことではなっていて、できることから早くやっていかなければならないかと思っています。予算の制約もありますが、ある程度の柔軟性を持ち、行政自身が市民協働を停滞させないよう努めていきたいと思っています。本日ご参加いただいた推進委員の皆さんには、今後の市民協働の中核として活躍を期待します。

本日はごつもありがとうございました。※今後の市民協働の取り組みについては市ホームページなどでお知らせします。

注3:行政と市民活動団体等が相互に提案し、協働により実施する事業。行政だけでは踏み切れなかった事業に、パートナーとなる市民活動団体等の専門性や機動性を生かして事業化することが可能となる。